

福島再生可能エネルギー研究所の活動

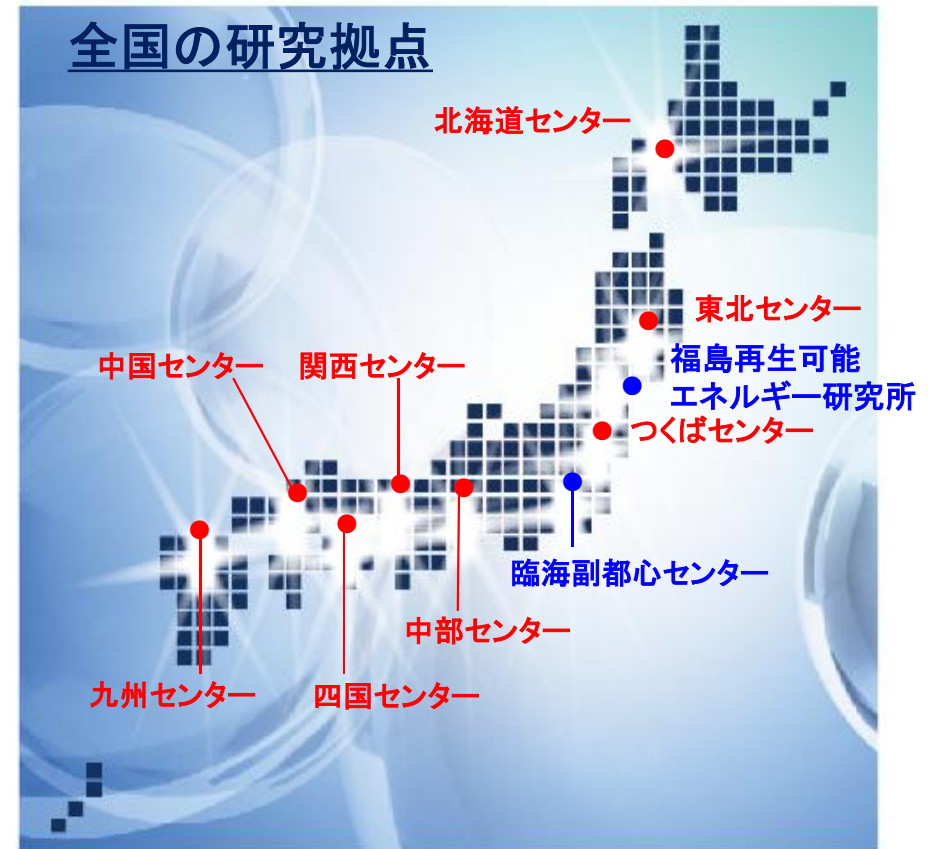
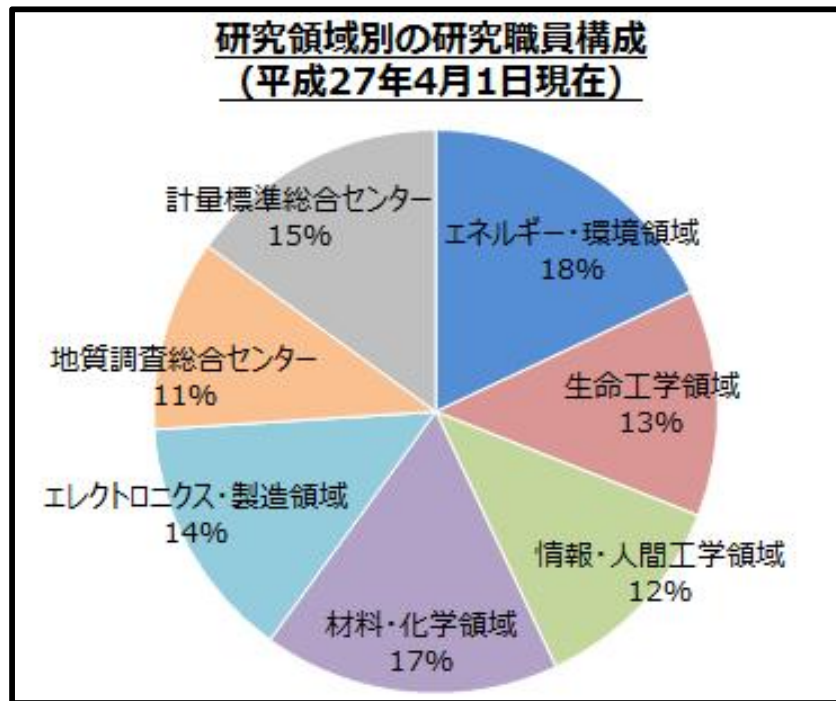
(国立研究開発法人)産業技術総合研究所
福島再生可能エネルギー研究所

大和田野 芳郎

2015年9月7日

産総研の概要(人員・予算・拠点)

- 常勤の研究職員(約2,300名)、ポスドク等の非常勤の研究職員(約1,800名)、大学・企業等からの外来研究員等(約4,700名)を含め、合計約9,000名が産総研で研究開発活動を実施。
- 総収入額は約1,000億円。



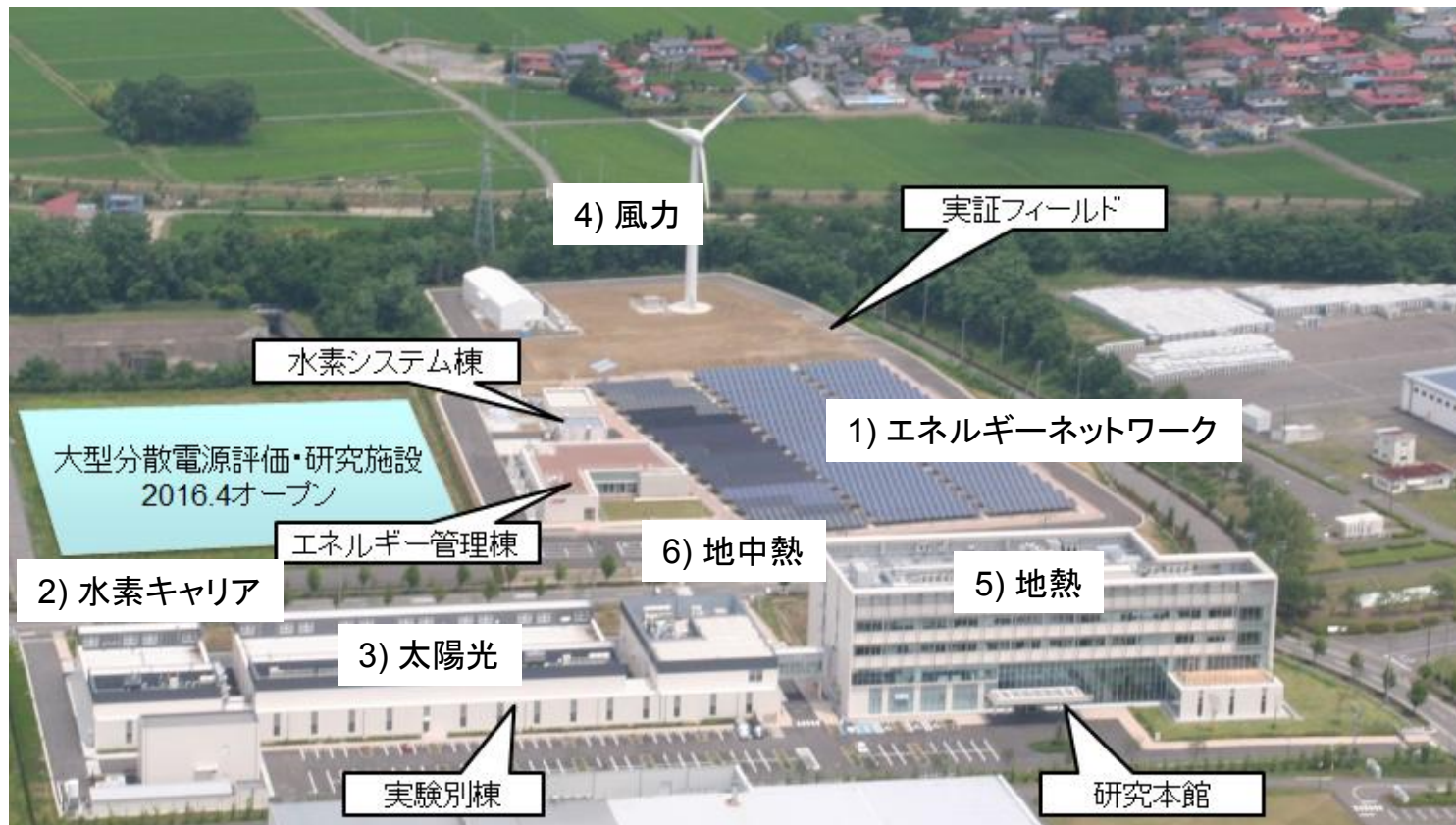
- ・革新的技術シーズを創出し、育て、産業界へ橋渡し
- ・自然災害の軽減・環境保全・資源開発等のための地質調査
- ・広範な産業分野に貢献する計量標準・標準物質の開発と普及

- ・地元の産業や技術ニーズ・シーズにマッチした研究開発をオール産総研のネットワークを活用して実施

福島再生可能エネルギー研究所 (FREA)

目的

- ・世界に開かれた再生可能エネルギーの技術開発を推進
- ・新産業の集積を通して復興に貢献
(「東日本大震災からの復興の基本方針」、「エネルギー基本計画」等)



- ・郡山西部第二工業団地
 - ・平成26年4月1日開所
 - ・面積: 7.8ha
 - ・人員: 380名
(内産総研135名)
 - ・年間研究費: 約25億円
- 再エネ大量導入を目指す
6テーマ

国内外との連携、人材育成

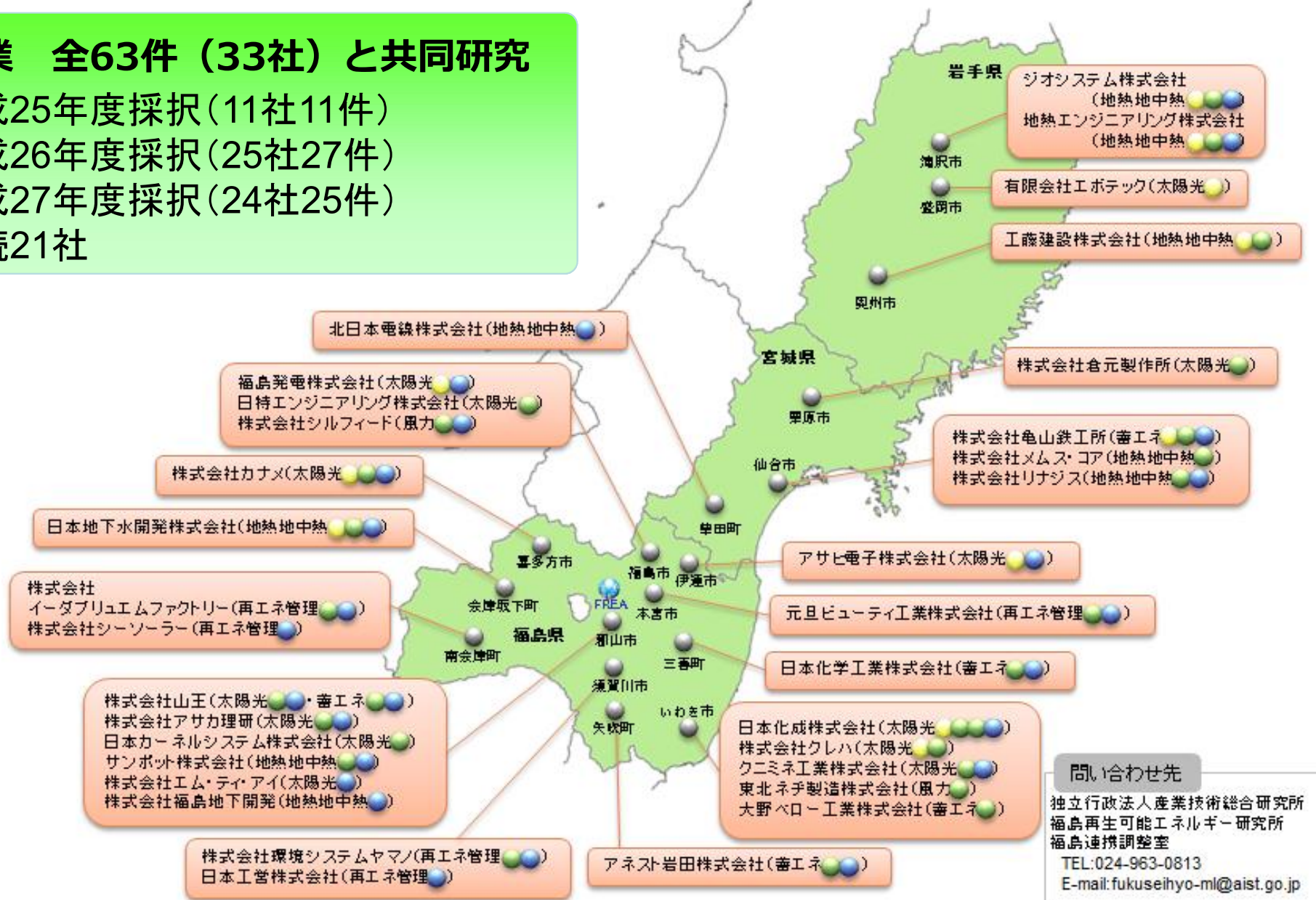
- 大学・企業との連携
 - 太陽電池コンソーシアム等、主要テーマで企業、大学と連携
- 地元との連携
 - 技術シーズ支援や産業人材育成
 - 県内4大学と地域イノベーションプログラムで連携
 - 再生可能エネルギー関連産業推進研究会
- 国際連携
 - 米、独、ノルウェー、オランダ
オーストラリア等と
共同研究や国際標準化
 - 東南アジアと人材交流



被災地企業のシーズ支援プログラム

参加企業 全63件 (33社) と共同研究

- 平成25年度採択 (11社11件)
- 平成26年度採択 (25社27件)
- 平成27年度採択 (24社25件)
- 継続21社



問い合わせ先
 独立行政法人産業技術総合研究所
 福島再生可能エネルギー研究所
 福島連携調整室
 TEL: 024-963-0813
 E-mail: fukuseihyo-ml@aist.go.jp

事業化支援と成果発信

- 事業化支援
 - 常陽銀行・東邦銀行との連携事業(アクションJAT)実施、3社
 - FREA技術交流・展示会(6/30)、17社、142人参加
- 積極的成果発信(展示会出展)
 - 再生可能エネルギー世界展示会(RE2015) 7/29-7/31、東京ビッグサイト
福島県、郡山市、企業との共同出展、内堀福島県知事が基調講演
 - ふくしま復興再生可能エネルギー産業フェア(REIFふくしま2015)、10/28-29
等多数



企業との取り組みの紹介 H27.05.31



RE2015展示会 H27.07.29

産業人材育成

大学等から共同研究を通じて人材を受け入れ、再生可能エネルギー分野の人材を育成。

- 日大工学部、東北大、会津大、福島大等と共同研究。
ポスドクの雇用、大学院生の受け入れ支援
- インターンシップ、大学生・大学院生等の実習、見学の受け入れ
- 産総研職員による講義
「ふくしま再生可能エネルギーイノベーション人材養成講座」(郡山)等



ノルウェー工科大学
学生の見学
(2015.3.26)

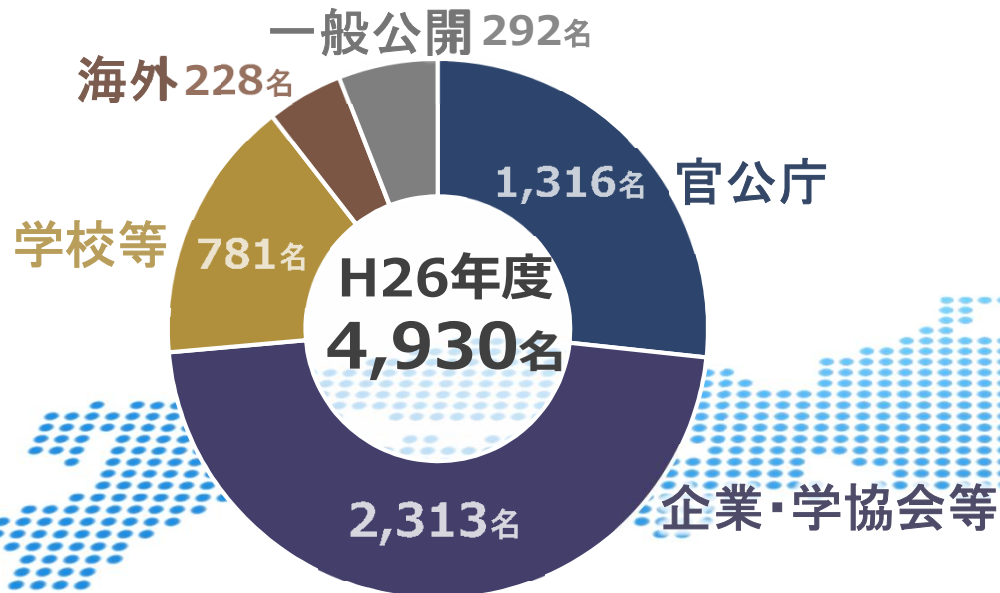
情報発信

● 報告会・学会・ワークショップ

- ・成果報告会(H27年6月)
- ・日本ーインドネシア地熱ワークショップ(H26年10月)
- ・AIST-NREL Workshop on Photovoltaics(H26年11月)
- ・アジア再生エネワークショップ(H27年2月,12月)ほか

● 視察・見学

- ・一般公開(H27年8月22日)ほか、多数の視察・見学
- ・常設展示施設を整備し、見学者向けの研究紹介を充実



郡山市での生活

職員は市内各所に居住して、バス、自家用車で通勤
様々な生活形態(市、商工会等から種々のの支援)

- ・ 単身生活
- ・ 家族と共に、育児、子供の就学
- ・ 独身婚活中

様々な活動

スポーツ、文化活動、親睦会
イベント参加等

➔ より多くの人が集まり、定住することを期待
雇用拡大、過ごしやすさ、まちの魅力などが重要